

〔赤穂義人録^上〕堀部金丸嘗儼舍居兩國橋西矢藏巷去本莊[○]吉良義為近以故約衆來過與俱[○]中於是良雄等四十七人[○]中畢來會兩國橋上衆皆衷甲以葦夾鑿在頭襲韋短服各杖短槍代棍如往

救火者狀[○]下略

〔三王外記^{靈王}〕元祿十六年十一月辛未滬公邸失火延燒方二十里兩國橋焚避火者不得過墮水而死者七八百人

〔泰平年表^{常憲院}〕元祿十六年十一月廿二日丑刻江戶大地震^{中略}兩國其外橋々落人多死

〔江都管鑰秘鑑^四〕兩國橋新大橋町奉行支配ニ成事[○]中

夫子產鄭國の政をとり其乘輿を以て人を潰滑に渡す人々を得て盡難き事を難ず去ば巨川に橋して民人渡る事を得る正に是仁政之宥なり我大都會の内にも橋水長なるものをあげてその由來を尋るに記すべき事多くあり先兩國を始新大橋の事は享保之頃御老中大久保佐渡守殿町奉行坪内能登守を呼給ひ仰渡れけるが程なく向後本所奉行支配たるべきよし也ける程なく亥年[○]享保^{四年}に至て本所奉行の持を止られ町奉行の持となりたるは亥の四月四日の事なりとぞ此月御用番井上河内守殿なり月番之町奉行大岡越前守を召て中の間にて左之通り御書付御渡被^{成候}とぞ

兩國橋

新大橋

向後町奉行支配ニ成候條可得其意候

亥 四月四日

右御書付越前守拜見有時猶亦河内守殿仰られけるは此度本所奉行之役さし止られ候ニ付本所處々橋々町方へ附候分は各支配たるべし兩國橋新大橋之義は目立候橋故御書付にて申達